

I. 教師海外研修の概要

【教師海外研修とは】

◆はじめに

教師海外研修は、昭和 40 年度(1965 年)に移住事業の理解促進のために南米を中心に高校教師向けの海外研修として始まりました。その後、小学校・中学校・特別支援学校の教員も対象とし、現在まで約 3590 名が参加しています。2003 年以前は、JICA が全国の教員を対象に本研修を実施しておりましたが、2004 年度のエジプト派遣より JICA 北海道単独で開始されました。以降、カンボジア・タンザニア・ネパール・セネガル・スリランカ・キルギス等に約 200 名の教員を派遣しております。新型コロナウイルス感染症による影響により、本研修は 2019 年度以後、実施を断念せざるを得ない状況に追い込まれました。その後、2 度の道内での教師国内研修を経て、2023 年度は 4 年ぶりに従来の教師海外研修として実施いたしました。

再開した教師海外研修の 2 年目となる本年度は、道内学校の夏休み延長を考慮して、例年冬に実施していた現地研修を夏へ変更しました。また JICA 東北と合同で研修を行い、一層規模の大きい研修となりました。

◆JICA 教師海外研修の目的

JICA は国際協力事業を通じて培った経験や人材、ネットワークを活用し、ますますグローバル化する教育活動に協力していきたいと考えています。

本研修は、開発教育や国際理解教育に関心を持つ教員を対象に、国際理解教育セミナー等の国内研修と、開発途上国への海外研修を組み合わせ実施し、開発途上国の置かれている現状や国際協力の現場、開発途上国と日本との関係に対する理解を深める場を提供します。参加者はその成果を教育現場の授業実践等を通じて次代を担う児童・生徒への教育に役立てること、また研修参加後に JICA と協力し、教育現場で開発教育や国際理解教育を推進する中核となるような人材を育成することを目的としております。

◆JICA 北海道教師海外研修 実施体制

主催：独立行政法人国際協力機構 北海道センター（JICA 北海道）

後援：外務省・文部科学省・北海道教育委員会・札幌市教育委員会

協力：北海道開発教育ネットワーク（D-net）

国内研修運営：公益社団法人 青年海外協力協会（JOCA）

◆研修の流れ

海外研修の効果を高め、訪問国への理解を深めるための情報提供等を目的とした 2 回の国内での事前研修と、研修の成果を生かした実践的な参加型手法を取り入れた指導案作りを目的とした帰国後研修を実施しています。また、これらの研修を一部、国際理解教育セミナーとして公開することで、授業づくりに必要な手法の習得や研修成果発表の機会を広く提供し、本研修参加教員以外にも共有することで、実践者のネットワーク作りを進めています。

日程	内容
(2024 年 4 月)	(オンライン募集説明会)
6 月	研修参加決定通知の送付
6/22	【第一次事前研修】オンライン（詳細は P14～） ・オンライン合同研修（全国） ・ザンビア概要、JICA 海外協力隊ザンビア体験談、参加型手法の授業体験、本研修全体の流れ、研修日記について など
6-7 月	【事前学習】 第二次事前研修前課題 ・研修先（ザンビア、アフリカ）基礎情報収集について調べる
7/13～7/14	【第二次事前研修 兼 国際理解教育セミナー実践編】（P16～） 会場：札幌国際交流館（リフレサッポロ） / 北工房さんまるさん

<p>7/27</p> <p>7/27～8/6</p> <p>9月 9/14～9/15</p> <p>10月～12月</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型手法の授業体験、旅程確認、事前課題発表 など <p>【出国前研修】 (P21～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東北参加者との合流 ・北海道、東北それぞれの事前研修内容の共有 ・打ち合わせ、意見交換 など <p>【ザンビア海外研修】 (P23～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各研修先訪問 ・研修中の情報収集活動、指導案素案作成に係る意見交換 ・1日のプログラム終了後の振り返り、情報共有 <div data-bbox="352 618 1279 792" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【帰国後作業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報の整理と共有 ・アドバイザーからの助言を踏まえた指導案（初稿）の作成 </div> <p>【帰国後研修】 会場：かでの2・7道民活動振興センター (P34～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案作成に係る参加者間の意見交換、アドバイザーによる助言 <div data-bbox="352 1037 833 1111" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※指導案（仮完成版）を提出</p> </div> <p>【各参加教員所属校における実践授業の実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案に基づいた授業実践（ホームページ等にその様子を掲載） ・授業後アドバイザーを中心とした振り返り <div data-bbox="352 1350 948 1424" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>※実践授業を基に、実践報告書を作成</p> </div>
<p>2025年1月 1/11～1/12</p> <p>2～3月</p>	<p>【成果報告会 兼 国際理解教育セミナー共有編】 (P37～)</p> <p>会場：JICA 北海道（帯広）センター 対面 / オンライン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研修の概要発表 ・模擬授業実施、教材紹介セッション ・研修全体を通じた振り返り <div data-bbox="352 1839 1023 1951" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【指導案完成版、実践報告書等の提出】</p> <p>実践報告集の作成、ホームページへの掲載</p> </div>

◆アドバイザー紹介

本研修では、国際理解教育の実践者として2人のアドバイザーの方からご指導・ご助言をいただきながら学習指導案の作成、授業実践を行いました。

前 北海道開発教育ネットワーク (D-net) 代表 橋詰 典明氏 児童発達支援放課後等デイサービス「ここてらす」 管理者

1996年に在外教育施設派遣教員としてペルー共和国リマ日本人学校へ赴任。同年12月、ペルー大使公邸人質事件に遭遇し、一時公邸内に拘束されたが、その後も派遣先で勤務し1999年に帰国。帰国後、2007年にベトナムへのJICA教師海外研修に参加し、同国の水問題を扱い「ドンマイ村に水プロジェクトがやってきた」というシミュレーションゲームを実践。その後、北海道開発教育ネットワークでの活動や石狩管内国際理解教育研究協議会、北海道国際理解教育研究協議会（教員による任意団体）などで実践を重ねる。また、2015年のエチオピアへのJICA教師海外研修からの5年間、同研修のアドバイザーとして参加者に同行し現地へ赴き、学校での実践に際しての支援を行う。

2020年3月、石狩市立花川北中学校校長を最後に38年間の教職生活をリタイアし、翌年の4月、在外教育施設へのシニア派遣にて、イランのテヘラン日本人学校の校長として2年間勤務。2023年3月帰国後、JICA教師海外研修のアドバイザーとしてキルギスへ、続く2024年はザンビアへの派遣に参加した。



ザンビア国ルサカ市きれいな街プロジェクト視察中の橋詰アドバイザー

JICA 北海道（帯広）開発教育アドバイザー 水谷 由美氏 帯広市立八千代中学校教諭

2003年、JICA教師海外研修でガーナに派遣され、開発教育に出会い、授業実践（自主開発教材）を積み重ねている。2006年～2008年、外国教育施設日本語指導教員派遣事業（文科省派遣）において、カナダ・アルバータ州の公立高校に派遣され、カナダ人生徒に日本語・日本文化や開発教育を指導した。2012年、ESD日米教員交流プログラム（ユネスコ・フルブライトジャパンによる派遣）で、持続可能な開発のための教育（ESD）を共通のテーマとし、日米間で教員の相互交流、意見交換、共同研究を行った。

2020年、長期社会体験研修にてJICA北海道（帯広）道東業務課に1年間勤務し、2021年から中学校教諭とJICA帯広開発教育アドバイザーを兼職。2023年度キルギス、続く2024年度ザンビアJICA北海道教師海外研修のアドバイザーを務める。



事前研修で参加者へメッセージを送る水谷アドバイザー